

Ⅲ 学びの充実・改善のヒント

1 児童・生徒一人ひとりのよさや可能性を伸ばす指導

(1) 児童が「自分で決める」ことを大切にしたい事例【小学校】

国語科の「書くこと」の指導において、自分の考えを書きたい、友達に伝えたいという児童の意欲が高まるよう、学校生活上の出来事などの身の回りのことを題材として取り上げるようにしています。児童が書いた文章については、まずは書いたということを褒めます。そして、内容については、できる限り肯定的に受け止め、励ますようなコメントをするようにしています。その際、教員からの直しは最低限にとどめています。



学習目標を実現するために、児童同士が互いにアドバイスする活動では、「なぜなら～」、「その理由は～」、「～ためである」などの理由を示す言葉を用いるという観点を示し、書き表し方を工夫するように指導します。その際にも、アドバイスできたことを褒めます。大切なのは、様々なアドバイスを受け、修正するかどうかを決めるのは、文章を書いた本人とすることです。そのように判断した理由を尊重します。

(2) 生徒が「考えを伝え合い気付き合う」事例【中学校】

本校の生徒たちは、自分の考えを伝えることができ、このよい点を生かし、数学の問題演習の際、どのようにして答えにたどり着いたのかを他の人に説明するように指導しています。

生徒によっては、分かったような気がしているものの、実は分かっていないことがあります。自分の考えを確かなものとするための方法として、改めて説明することは、答えを出して満足する傾向にある本校の生徒たちにとっては有効です。

また、別の解き方がないか、探すことを大切にしています。その際、個人で考えたことをグループ内で共有し、同じ考えや異なる考えに触れるようにします。ここでも、その解き方を説明するように指導します。

逆に分からないときは、分からないといえることが大切だということも指導します。生徒同士を関わらせ、互いに教え合い、気付き合うという過程を大切にします。

このような学習を続けてきましたので、生徒たちには、分からないことがあれば、分からないと言える関係性ができてきました。



かもめ先生の7ポイントアドバイス

児童・生徒質問紙調査からは、在籍する児童・生徒が感じていることや考えていることを把握することができます。本調査の対象は小学校第6学年と中学校第3学年ですが、学校が指標とする質問項目については、他の学年でも年間に複数回実施するなど、継続的な実態把握を行い、その結果を踏まえ、よい点や可能性を伸ばす指導に生かすことも有効です。

<参考> 「カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価 学習評価資料集（小学校，中学校）」 P. 6

2 学びのつながりを意識した指導

(1) 小学校で「分からない」を大切に、中学校で「伝え合う」ことを重視している事例

【小学校】

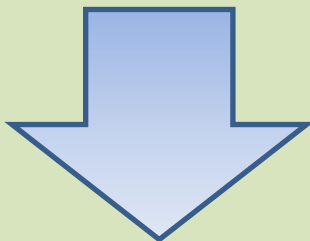
「分からない」は宝の言葉であると捉え、一人の「分からない」が「みんなの学び」につながると考えています。授業では考える時間をしっかりと確保し、自分の考えを表現するようにしていますが、「分からない」ということも、大切な表現だと指導しています。

個人で考えた後は、全体で話し合いをします。その話し合いのスタートになるのが、「分からない」という状況です。「分からない」という児童が、何が分からないのかを表現し、他の児童が、その分からないことを説明することで「みんなの学び」を深めていきます。

その際、教員が子どもの言葉を丁寧に受け止めながら話を聞きます。間違ふことを責めないという相手に共感する雰囲気づくりも日ごろから大切にしています。

そして、授業の後半は再び個人に戻り、自分の今日の学びについて振り返ります。

小学校での、分からなかったことが分かるようになった達成感や充実感
は、中学校の学びにつながっていく力となると考え、中学校の教員にも、私たちが大切にしている指導を伝えるようにしています。



小学校で「分からない」ことを認めてもらえる指導を受けた児童には、ありのままの自分を受け止めてもらえる安心感と自己肯定感が育つでしょう。そして、中学校で専門的な指導を受けたとき、自信をもって自分の考えを文章等で表現することができるようになると考えられます。

【中学校】

本校では、小学校において大切にしていた「分からない」ということを表現することや、それをきっかけにした「みんなの学び」を引き継ぎ、自分の考えを表現することができるように、様々な教科の学習で書く活動を多く取り入れています。

例えば、国語科の授業では、自分の考えや意見を明確に伝えるために、集めた情報を表などにまとめ、分類・整理したり、読み手に伝わるように構成を考えたりするなど、書くことができるようになるための手立てを具体的に活動に取り入れています。また、自分の書いた文章が、意図したとおりに伝わるかどうかを確かめるために、友達どうして読み、よい点や改善点を助言し合います。



生徒がノートに書いているメモを大切に、考えを表現することにつながりそうな言葉に線を引き、必ずコメントをつけて返しています。学習を構造化し、書くためのプロセスを見える化することや、こまめにノートを点検し助言することを粘り強く繰り返すことで、生徒たちは書きかたを学び、伝えたいことが明確になり、書く量も増えていきました。

(2)既習事項を踏まえ、実生活との結びつきや、これからの学びを意識した事例 **【中学校】**

本校の数学科では、本時の学習内容を確認する際、生徒に実生活との結びつきや、これからの学びとのつながりも伝えるようにしています。

前時までの既習事項、前学年の既習事項、小学校の学習内容などを振り返り、本時の内容とどのように結びつくのかを説明します。また、次時の学習への発展、次学年や高等学校での学習とのつながりや、実生活との結びつきを示すことで、生徒が学習する意味を感じられるようにしています。

また、単元計画を生徒に示し、学習目標や言語活動に対する見通しを持たせるとともに、小單元ごとに観点別に身に付けたい資質・能力を示し、学習後の振り返りができるようにしています。教科書等を参考にした例題も示し、自己評価を行う際に観点別に確認することができるように工夫しています。



かもめ先生のワンポイントアドバイス

「自ら学習を調整しようとする態度」や「粘り強く学習に取り組む態度」を見取る「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価にあたっては、教員が児童・生徒に学習目標や学習の計画、評価の方針等を事前に示しておくことが大切です。

小学校低学年の児童に対しては、学習の「めあて」などのわかり易い言葉で伝えるなど工夫しましょう。

このようなことにより、児童・生徒は学習に見通しをもち、「めあて」に向け自分なりに様々な工夫を行おうとしたり、対話的な学びを通して自らの考えを修正したり、立場を明確にして話したり、試行錯誤しながら学習を進めたりするなどのきっかけとなることが考えられます。

<参考>「カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価 学習評価資料集（小学校，中学校）」P.15



かもめ先生のワンポイントアドバイス

学習指導要領解説には、教科や各学年の目標の他に、内容の系統表が掲載されているものもあります。

例えば、下の資料のような、国語科における「〔思考力、判断力、表現力等〕B 書くこと」の系統表があります。このような資料を参考に、学びのつながりを意識した指導を充実させていきましょう。

<出典>

小学校学習指導要領解説 国語編 P.204、205

中学校学習指導要領解説 国語編 P.174、175

B 書くこと		(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。				
題材の設定	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選択すること。	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	
情報の収集				
内容の検討				
構成の検討	イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。	イ 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。	イ 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。
考えの形成	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	イ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。	イ 伝えたいことが分かりやすいように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。	イ 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。
記述		ウ 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。
推敲	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。	エ	エ	エ
共有	オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。	エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。	エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。	エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。
言語活動例	(2) (1)に示す事項については、例	ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	オ 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。	オ 論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。
	イ 日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。	イ	イ	イ
	ウ 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	ウ	ウ	ウ
(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。				
	ア 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。	イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。	ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。
	イ 行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く活動。	イ	ウ 短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動。	イ 情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動。
	ウ 詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く活動。	ウ		

3 資質・能力の育成を図る校内研修の推進

(1)全国学力・学習状況調査の教科に関する調査問題を活用した事例【中学校】

本校では、校内研修のプロジェクトチームと各教科担当が中心となり、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、その結果を全教職員で共有し、「強み」と「課題」を見取っています。また、町における学力・学習状況調査を全国の調査と同日に行っており、その分析も併せて行うことで、1・2年生を含めた全学年の生徒の実態を捉えることができます。

この分析を活用しながら授業づくりを行っています。具体的には、

- ・教科会において、教科に関する調査問題を解く
- ・教科会において、本調査の報告書（文部科学省作成）を読み、資質・能力を育成するための指導のポイントを確認する
- ・単元の学びに適切に位置づく場合は、授業アイデア例を参考にしながら、調査問題を授業に取り入れる

などです。

さらに、授業づくり以外でも、調査を活用しています。

令和2年度は、教職員に「強み（継続し、伸ばしたい点）」と「課題（改善したい点）」のアンケートを行い、その結果も令和3年度の教育活動に反映しました。

例えば、本校では、生徒質問紙の「自分にはよいところがあると思う」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」「学校に行くのは楽しいと思う」などへの過去の回答状況から、生徒の自己肯定感や学校生活へのモチベーションが低いという課題が見られました。

その対応策として、昼休みを10分長くして学級や学年でレクリエーションを行う「水L（水曜のロング昼休み、通称「すいエル」）」を9月から始めました。普段の授業とは違う生徒の姿や生徒が相互に理解を深めようとする様子が見られ、集団としての一体感を味わう1つの機会となっています。

教職員・生徒が工夫を凝らした取組である「水L」の実施により、各学級の雰囲気は確実に変化してきていると実感しています。

大切なことは、どのような生徒を育てたいのかを、全教職員で共通理解し、教育課程を編成していくことです。



(2)授業研究において学習指導要領解説を活用している事例【小学校】

本校では、授業研究において、学習指導要領解説を活用しています。

研究授業が決まると、授業者、そして、授業者と一緒に単元構想をするメンバーは、まずは、その単元において育成する資質・能力を分析します。解説に書かれてあることを何度も読み、分からないことを確認し合ったり、教材文と結びつけたりしながら、育成する資質・能力を具体的にイメージしていきます。

次に、単元の評価規準などを設定します。評価計画は単元の展開を構想しながら立案することが多いです。評価規準は、目の前の子どもたちの実態を踏まえ、国立教育政策研究所作成の学習評価に関する参考資料を参考にしながら設定しています。

そして、本格的な教材研究を行っていきます。「ここではどのように発問しようか」「登場人物の気持ちはどのように変化しているか」など、具体的に授業の流れを考えます。この教材研究の時間は、とても楽しいです。

しかし、教材研究に没頭するあまり、時々、何を目指していたかわからなくなることもあります。そのようなときは、解説をもう一度読み返し、その単元で育成を目指す資質・能力に立ち戻るようにしています。

授業研究の際の授業を見る視点や研究協議の際の協議の柱も、「育成する資質・能力」となっています。本校の教員は、子どもたちの学びの具体的な姿を見取り、その姿から授業を検証するようにしています。

このような取組もあり、本校では、研究授業のみならず、日頃の単元づくりにおいても、学習指導要領解説を活用するようになりました。

今日の授業の中で、Aさんは、「残雪」の呼称の変化に着目した発言をしていました。「残雪のことを『残雪め』や『たかが鳥』と呼んでいた大造じいさんが、最終的には『がんの英雄』と呼んでいた」という発言をきっかけに、他の子も、物語の全体像から考えるようになったと感じました。



このような教員同士のやりとりからは、小学校国語科における「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」という資質・能力がBさんに育成されつつある様子が分かります。

〇精選・解説（文字的な文章）

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	小学校第1学年
<p>ア 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p>	<p>ア 登場人物の気持、その変化や性格、態度について、場面の変化や場面を結びつけて具体的に想像すること。</p>	<p>ア 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。</p>	<p>ア 目的に応じて必要な情報に着目して資料したり、場面を場面、場面と順序などを結びつけていたり、内容を概観すること。</p>

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

第3学年及び第4学年のみを受けて、この指導事項で促した登場人物の相互関係などを手探かりに、その人物像や物語などの全体像を具体的に思い描くことや、優れた記述に着目しながら様々な表現の効果について考えたりすることや、登場人物の人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の記述を結び付け、それらをもとに想像や考え方を総合して判断することが必要である。この指導事項で促した特徴や心情を踏まえ、物語などの展開と結びつけながら読んでいくことが重要である。

人物像などの全体像は、登場人物や場面設定、個々の記述などを基に、その世界



そうですね。Aさんの発言を聞いていたBさんは、急に教科書のページをめくり、物語を最初から読み返していました。そして、「大造じいさんは強く心を打たれ、ただの鳥に対して…」の叙述を根拠に、大造じいさんの人物像を想像し、発言していたと思いました。

4 資質・能力の育成を図るための言語活動を充実させた単元(題材)づくり

(1)意見を述べる文章を書く単元づくりの事例【中学校】

中学校第2学年の国語科「書くこと」における実践です。「考えの形成、記述」に関する資質・能力を育成するために、単元を通して新聞へ投稿する意見文を書く活動に取り組みました。第1学年で新聞記事を取り上げたスピーチを行って「話すこと」の学習をしてきたり、廊下に置いてある新聞を日常的に見たりすることができる環境にある生徒にとって、新聞は身近な教材となっていました。

そこで、身の回りの出来事や物事について、自分の考えを述べる文章を約600字で書き、新聞へ投稿する活動を設定しました。読み手は老若男女であるため、誰にでも分かる言葉を用いることや、適切な根拠を示すこと、具体例を加えて説得力を増すことなどに留意しながら、生徒は学習を進めました。



(2)観察や実験のまとめのレポートづくりの事例【中学校】

本校の理科の取組を紹介します。

本校では、既習事項や日常生活での体験、単元での学びや実験結果を根拠にした「他の人が一目でわかるレポートづくり」に取り組んでいます。

中学校第1学年で学習する「光の屈折」の実験で、「光がガラスの中で曲がった」と表現する生徒がいました。他の生徒が「ガラスの中でくねくね曲がるの？」と質問したところ、「あっ！」と気づいたように「光がガラスに入るところで曲がっている」と表現を変えていました。さらに、そのやり取りを聞いていた先生が「前の実験では光は直進するって結論だったよね？」と質問したところ、よりわかりやすい表現にするにはどうするかグループでの話合いが始まりました。

この実験結果に基づき、レポートを書いていきました。



このような取組を通して、実験や観察の結果だけに注目するのではなく、自らの体験や単元での学びを振り返る生徒の姿や、どのような表現なら自分の考えが他者に伝わるのか試行錯誤する生徒の姿が見られるようになりました。

(3)「単元計画(学びのプラン)」を活用した事例【中学校】

本校では、単元の導入で、「学びのプラン」を活用して、生徒と学習目標や取り組む課題を共有しています。「学びのプラン」には、単元を通して身に付けさせたい力、評価規準、授業計画、評価の方法などを書き込みます。

「学びのプラン」を活用してみて良かったことは、単元を通して育成する資質・能力が明確になった点です。また、同じ領域の単元を学年で比べてみると、学年が上がるごとにステップアップしていく様子も明確になりました。

育成する資質・能力が明確になることにより、評価規準も明確になり、授業中に生徒の学習状況を評価するポイントがはっきりしてきました。そして、学習評価を次の学習指導に生かしたり、教員の授業改善に役立てたりし、指導と評価の一体化を図ることができています。

また、「学びのプラン」を生徒と共有することで、生徒も見通しを持って授業に取り組むことができ、自らの学習を振り返り、自らの学習を工夫したところを自覚するようになり、確かな成長につながっていると感じています。



かもめ先生のワンポイントアドバイス

学習指導にあたっては、学習指導要領に基づき、単元等において育成する資質・能力を明確にする必要があります。

科(第 二 学年) 単元構想表			
単元名 説話「高き」の是非を問う ～役力のある話をする～	おおよその時間 7	単元等を通して育成すべき資質・能力(学習指導要領により示される指導内容) 決められていること 〔知識及び技能〕(2) 情報の取っ方に関する事項 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。〔思イ〕 〔思考力、判断力、表現力等〕「A 話すこと・聞くこと」 自分の立場や考えを明確にし、相手を納得できるように論理の展開などを考え、話の構成を工夫すること。〔A(1)イ〕	
学習活動を通して育成された資質・能力を把握するための評価活動(工夫すること)			
観点	単元等の評価規準(知識及び技能に関する事項) 800 (一) 1)	評価項目 (指導と評価の担当表) ・楽題討論の振り返り ・楽題討論	評価方法(評価規準の実現状況を把握するための方法) ・ワークシートの記述内容の分析 ・発言内容の観察
知識・技能	情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ)	・楽題討論の振り返り ・楽題討論	Cと評価した児童・生徒への手立て(目にするために行う指導・支援等) ・情報の事起理解、転換、発信元、発端時間などにより、情報の信頼性を確かめるように指導する。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を納得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ)	・楽題討論の振り返り ・楽題討論	・聞き手に応じて説明を加えたり、具体的な事例を根拠として示したりするなど、話の根拠を考えるよう指導する。 ・語句や文の効果的な使い方を考えるよう指導する。
主体的に学習に取り組む態度	粘り強く論理の展開を考え、今までの学習を生かして議論しようとしている。	・学習活動全体の振り返り ・学習活動全体	・学習に工夫したところや、学習を進める上で参考となった友人や教員の発言などについて話し合うよう指導する。
資質・能力を育成するために児童・生徒が行う学習活動(工夫すること) ・楽題討論(練習1回、本番1回)とその振り返り ・学習活動全体の振り返り		活用する教材・教具等(工夫すること) ・教科書 ・PISA調査問題 ・Webの検索	

そして、その資質・能力の育成にあたっては、言語活動の設定、扱う教材、指導方法、評価方法を工夫することが重要です。ここで紹介する単元構想表は、指導と評価の一体化を図るための有効なツールです。

単元構想表解説

学習指導要領により定められている資質・能力を転記します。これは全単元等に定められており、教育の機会均等確保のために、全ての教員が理解しておくべきことです。学習評価を適切に行うためには、指導し育成する資質・能力を明確にする必要があります。学習指導要領解説も読み、内容の理解に努めます。

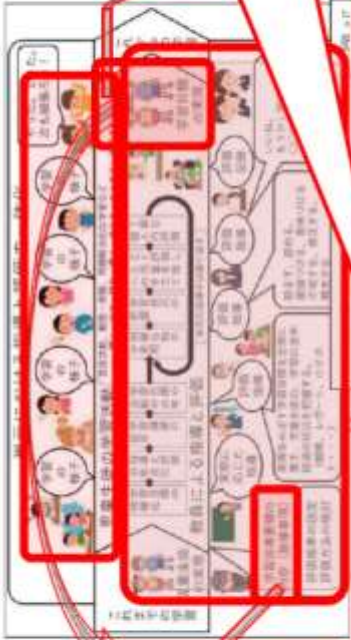
単元等を通して育成する〔知識・技能〕の実現状況を把握することができるように設定します。

単元等を通して育成する〔思考力・判断力・表現力等〕の実現状況を把握することができるように設定します。

児童・生徒が、学習に取り組む中で、〔知識及び技能〕を獲得したり、〔思考力、判断力、表現力等〕を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。そのためにも単元等の導入では、当該単元等において育成する資質・能力を明示することが大切です。

科（第 学年）単元構想表

単元名 表紙「竹の子」の是非を語り～取持ちのあつた話をする～	7	おわたの創設
単元等を通して育成すべき資質・能力（学習指導要領より示される指導目標）		
求められること） 〔知識及び技能〕 (2) 情報の使い方が関する事柄 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。 (2)(イ) 〔思考力、判断力、表現力等〕 (A) 話すこと・聞くこと） 自分の立場や考えを明確にし、相手と交渉できるように論理の展開などを考え、話の構成を工夫すること。 (A)(1)(イ)		
視点	学習活動を通して育成された資質・能力を把握するための評価活動（工夫すること）	評価場面 (指導と評価の両面)
知識・技能	単元等の評価規準（単元学習活動の「評価と評価の場面」） 情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2) イ)	・ワークシートの読み取り ・集団討論 ・集団協議の振り返り ・集団協議
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手と交渉できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A)(1)(イ)	・ワークシートの読み取り ・ワークシートの読み取り ・集団協議
主体的に学習に取り組む態度	自ら強く論理の展開を考え、今までの学習を生かして議論しようとしている。	・学習活動自体の振り返り ・学習活動自体
資・能力を育成するための児童・生徒の行う学習活動		〔工夫すること〕 ・教科書 ・FISA 課題問題 ・Webの情報



評価方法は、評価場面において、育成する資質・能力の実現状況を把握することとできるものとして、適切な評価資料を必要に応じて作成する。単元を通して育成する資質・能力を明確にし、効果的な評価を行うようにします。

Cと評価した児童・生徒への手立ては、学習活動を通して絶えず行い、B評価になるように指導します。予め手立てを考えておくことが大切です。

評価場面は、その単元等の中で、記録に残す評価を行う場面とします。授業中の学習評価は常に評価と指導に生かす評価を使い分けるなど、効果的に評価を行うようにします。

資質・能力は、単元や題材等のまじりの中で言語活動を通して育成されます。児童・生徒にとって必然性のある言語活動の設定や、扱う教材・教具等の工夫により、効果的に資質・能力を育成することができま

単元等の評価規準は、単元等の学習活動を通して育成する資質・能力の実現状況を図ることができるよう、指導する各教員が設定します。その際、国研の参考資料を参考にし、学習活動や教材・教具等を踏まえて設定しましょう。

(4)子どもたちの自発的な学びを単元に結びつける事例【小学校】

本校では、児童が、いつでも、自由にタブレット端末を活用することができる環境を整えています。授業中だけでなく、休み時間中も、児童の興味や関心に応じて、いつでも端末を活用することができます。

このような環境のもと、児童が進んで漢字の学習をしている様子を、よく見かけます。このような学習は、漢字の読み書きに関するものですが、これを単元の学習と結びつけ、漢字を適切に使用し、自分の考えを表現するように指導します。

漢字を使うことができるようになっていく喜びを、文脈の中で適切に使うことができる資質・能力の育成へと結びつけるようにすることで、児童はますます自発的な漢字練習をしていくようになりました。

毎週金曜日に行う朝ドリルにも、タブレット端末を活用した 10 分間の漢字学習を取り入れています。この学習にも、楽しみながら取り組んでいる様子が見られます。



(5)自発的な読書活動と単元の学習を結びつけて表現力を豊かにする事例

【小学校】

自分の考えを文章等で表現する力を育成する際には、国語科の「書くこと」に関する指導を行うことや、各教科等の学習活動の中で、書く活動を取り入れることが大切です。

また、そのような学習を充実させていくためには、日常的に多くの語彙や優れた表現に触れる機会を持つことや、そのような日常的な取組を、国語科をはじめとする各教科等の指導と結びつけることが重要です。

このような考えのもと、本校では、児童が読書に親しむ環境を整えるとともに、各教科の学習で積極的に学校図書館を活用するようにしています。

専門の職員が学校図書館に常駐し、児童の読書の相談や学習を進めるために参考となる図書の紹介をしています。



このように、読書を通して触れた表現を、国語科の「書くこと」の学習に取り入れて表現するように指導します。

児童は、読書によって出合った言葉を使い、自分の考えを表現する学習を進めています。徐々にではありますが、豊かな表現力が身に付いていると実感しています。

(6)国語辞典や漢字辞典の活用を単元に結びつける事例【小学校】

本校では、児童の語彙を豊かにするために、国語辞典や漢字辞典等を様々な教科で活用するよう、指導しています。

意味が分からない言葉や読めない漢字に出合ったときは、教科を問わず、日常的に辞典で調べるようにしています。

特に、社会科では、児童にとって馴染みのない言葉に触れる機会が多いため、そのような時には、必ず辞典を引くようにしています。

辞典の使用に際しては、「辞典に載っていた文章を書き写さないこと」を約束しています。児童は、辞典に載っていた言葉の意味をそのまま書き写し、調べた気になってしまいがちです。書き写しただけでは、その言葉は、身に付いたとは言えません。調べてわかったことを自分の言葉で書くことで、言葉の理解を促し、学習課題に対する考えを深めさせています。

